

整形外科学：脊椎疾患

39-097 腰部脊柱管狭窄症の症状として特徴的なのは

どれか。

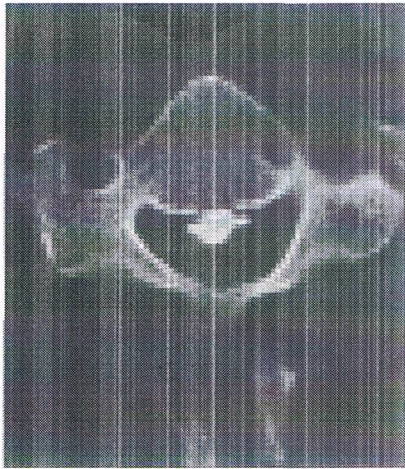
間欠的跛行が最も特徴的。他痛やシロレ。下肢の筋力低下。
(前はすり足や少し歩いたがる)

1. 間欠性跛行
2. 腱反射亢進 *減弱*
3. 凹足 ... シャルコ・マリー・スツ病や二分脊椎のV群(S1, L6, L7) などでおこる。
4. 足底潰瘍 ... 糖尿病病などでおこる。
5. 起立性低血圧 ... より高位の障害でおこる。

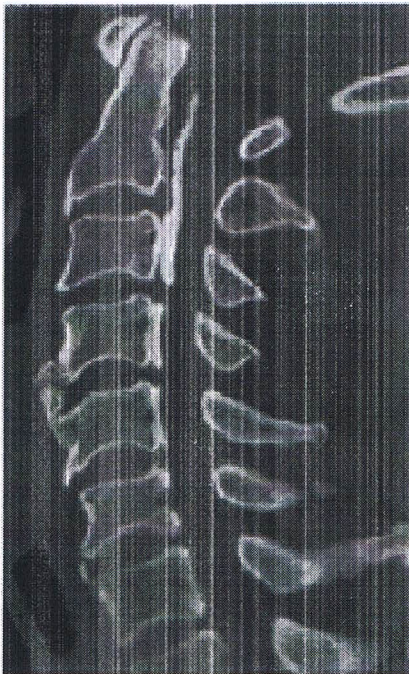
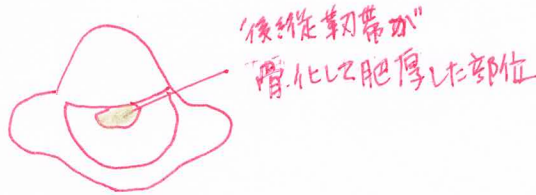
44-080 CTを示す。この症例でみられるのはどれか。2つ選べ。

1. 筋線維束攣縮
2. 上腕三頭筋反射の低下
3. Hoffmann 反射陽性
4. Babinski 反射陽性
5. 舌の萎縮

下位運動ニューロンの障害でおこる。
CTより後縦韌帯骨化症がみられる。
椎骨直ぐに圧迫されるため、椎骨直ぐに圧迫として上位運動ニューロンが障害される。



(水平断)



(矢状断)



脊 上位運動ニューロン障害	下位運動ニューロン障害
(筋) 痙縮(折れ曲がり現象)	弛緩(筋力低下)
(腱反射) 亢進	減弱or消失
(筋萎縮) - (死にまで進行性)	+
(病的反射) +	-
(線維束性攣縮) -	+

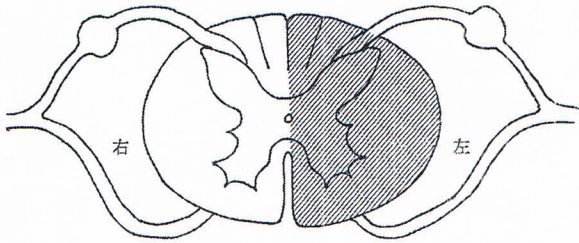
45-A-088 強直性脊椎炎で正しいのはどれか。

1. 20歳代の女性に好発する。 **男性**
2. 急性発作で発病する。
3. 血沈は正常である。 **亢進**
4. 虹彩毛様体炎を伴う。
5. 四肢の関節は障害されない。 **では股関節、肩関節はとも障害される。**

強直性脊椎炎

- ・ 10~20代の男性に多い。原因不明。
- ・ 全身のどこかでも疲労感、くり返す腰椎痛などから始まる。血沈↑
- ・ 重症例では仙腸関節や脊椎、四肢の関節強直をおこす。
- ・ 合併症として虹彩毛様体炎、クローン病、潰瘍性大腸炎などがある。

46-P-088 第5胸髄レベルの脊髓横断面の模式図に損傷部位を斜線で示す。右下肢にみられる症状はどれか。



図は脊髓半側症候群 (Brown-Séquard 症候群) による。

障害部位以下の

- ・ 同側の深部感覚障害と運動麻痺。
- ・ 反対側の温痛覚障害がおこる。

1. 運動麻痺
2. 痛覚鈍麻
3. 位置覚異常
4. 振動覚低下
5. 腱反射亢進

脊髓左側の障害なので

左の深部感覚障害と運動麻痺
右の温痛覚障害がみられる。

* 振動覚、位置覚、運動覚は深部感覚。

48-P-088 腰部脊柱管狭窄症でみられるのはどれか。

1. Trendelenburg 徴候 - 股外転筋↓ (筋ジスなど) でみられる。
2. 下肢の腱反射亢進 ↓
3. 腰椎前弯増強はみられない。変形性脊椎症や可べり症から腰部脊柱管狭窄症に発展することが多い。
4. 間欠性跛行
5. 槌趾変形 はみられない。関節リウマチなどでみられる。